

# 地図を利用した市民団体の活動情報提示手法の提案

小西 貴之<sup>†</sup> 竹野 健夫<sup>†</sup> 菅原 光政<sup>†</sup>

<sup>†</sup>岩手県立大学 ソフトウェア情報学部

## 1. はじめに

近年、大規模な自然災害をきっかけにボランティアなどの市民活動が注目されている。新規参加を希望する市民が増加する一方で、活動の目的や場所など希望者の制約に合致する活動や団体を見つけることが難しい。また市民団体においても活動の周知や参加の促進、団体間連携への発展など情報発信は重要である<sup>1)</sup>。本研究は、市民による情報収集と団体間の情報収集・共有支援を目的に、地理的情報と時間的情報を組み合わせた活動実態の提示方法について提案する。具体的には地図とマイクロブログを利用した団体情報管理システムを構築し、地図上のマーカーと活動情報を関連づけて提示する。

## 2. 市民活動と情報利用

### 2.1 市民活動と市民団体の定義

市民活動とは、市民が自発的に行う営利を目的としない社会問題の解決に向けた組織的活動のことである。内容はまちづくりや社会福祉などのほか人権活動や消費者運動など多岐に渡る。またこれらに取り組む団体のことを市民団体と呼ぶ。その中でも都道府県もしくは内閣府に認定された法人格を持つ市民団体は NPO と呼ばれる<sup>2)</sup>。

### 2.2 市民活動における情報発信の要件

#### ① 情報発信のコスト抑制

メンバーに広報担当が在籍しない場合も多く、情報発信が業務の負担となっている。行政への報告資料と違い、活動中に情報発信を行うことも考慮して、情報の発信が手間にならない媒体を利用する必要がある。

#### ② 情報に対する信頼性の確保

現在では当たり前になっているインターネットによる検索は、得られる情報の正当性が判断しにくいという特徴がある<sup>3)</sup>。詳しくない者にとっては判断基準すら曖昧で情報に確信を持たな

いことも多い。活動内容や活動団体そのものに対して信頼を得るような工夫が必要になる。

#### ③ 情報を発見してもらう工夫

市民団体は数多く存在し地域内に分散している。これは情報検索時の障害になっており、埋もれている団体を発見しにくい。団体情報を集約し一括で管理することで、情報検索や提供を容易にする必要がある。

#### ④ 不特定多数への拡散

市民活動の情報は内輪にのみ流通し外部に伝わりにくい傾向にある<sup>3)</sup>。同じネットワークの中でのみの情報発信ではなく、広く一般に情報を周知できる場を整備する必要がある。同時に適した媒体による情報発信が重要である。

## 2.3 必要とされる仕組み

2.2 節より、市民活動に特化した情報集約と発信の仕組みが必要であると考えられる。既存のリンク集のようなものではなく、容易に市民団体や活動の情報を見つけることが出来なければならない。併せて団体間における情報共有やテキストに依らない情報提示の工夫が必要となる。

## 3. 団体情報管理システムの提案

2.3 節で挙げた仕組みを実現するために、本研究では地図を利用した団体情報管理システムを提案する。地図は地域に根差して活動している市民団体を「場所」という観点から集約し、直観的な情報の選択を可能にする狙いがある。

### 3.1 システムの概要

団体情報管理システムは基本情報管理と団体マップの 2 つから成る。地理的情報と市民団体の発信する活動情報を結び付けて地図上に表示することにより、地域内における市民活動の情報流通経路の拡大と情報共有を支援する。また収集した情報を分析し、発信される情報の特性や市民団体の特徴を把握する。地図サービスについては Google Maps を利用する。活動情報はマイクロブログの 1 つである Twitter を利用し収集する。システムの全体図を図 1 に示す。

#### ① 基本情報管理

団体情報、ツイート情報、公開設定などの基本

Proposal of Activity Information Providing Method Used an Area Map

<sup>†</sup> Takayuki KONISHI, <sup>†</sup> Takeo TAKENO,

<sup>†</sup> Mitsumasa SUGAWARA

<sup>†</sup> Faculty of Software and Informations Science, Iwate Prefectural University

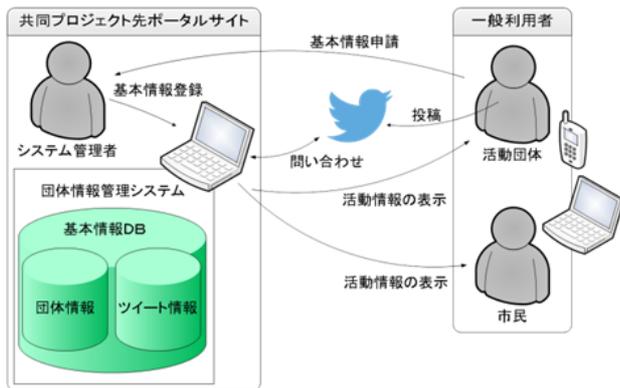


図1 システム全体図

情報の管理を行う。位置情報の登録については Google Maps 上のマーカーを移動することで緯度と経度を取得する。

## ② ツイート収集機能

団体情報に登録されたアカウント名を参照し、一定時間毎に自動収集する。収集されているツイート全体の最新取得日時を基準とし、一度に1つの市民団体に関して Twitter API により収集する。

## ③ 市民団体情報表示機能

基本情報に登録された位置情報と収集されたツイートを関連付け、地図上にマーカーを設置する。最新のツイート閲覧や各団体の Twitter ページに遷移する。表示するウィンドウには団体名やアイコン、本文の他に文中のリンクや画像を表示している。

また活動団体の情報発信頻度を把握しやすくする為に、地図上に時系列別の円を表示する。この際、投稿数の僅かな差による大きな変化を緩衝するために投稿件数の自然対数を円の半径に用いる。また、円は当日・1週間・半年に期間別に表示されており、直近で情報発信が活発な団体や恒常的に情報発信に取り組む市民団体を示す。これにより情報発信及び活発に活動している団体の発見を支援する。図2にマップの表示画面を示す。

## 5. システムの構築

本システムが有効に機能するか検証するにあたり、岩手県若者情報共有促進事業を対象にシステムの実装を行った。これは岩手県が行っている事業のひとつであり、県内で活動する若者の情報発信と周知によって、活動への参加促進と情報共有を図るためのネットワーク基盤を提案するものである。その中で若者交流ポータルサイトの制作が進められており、複数の教育機関やNPOが共同でコンセプトを取りまとめ、

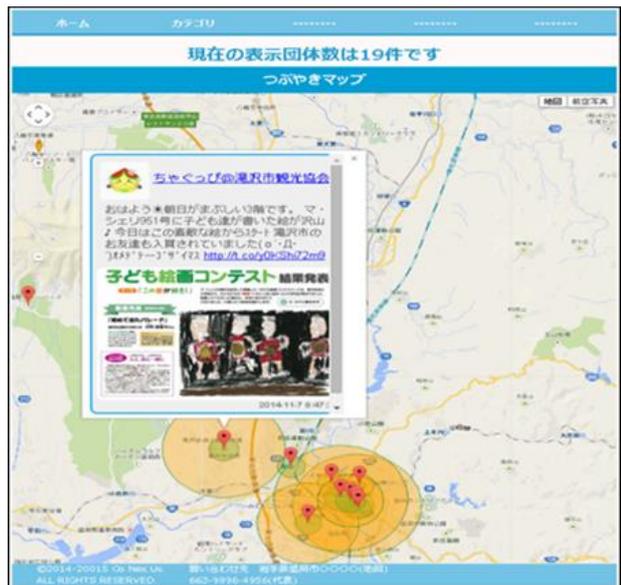


図2 マップ表示画面

現在構築が行われている。本システムはサイト内のコンテンツとして実装を行い、団体の基本情報を共有している。

本システムに関して、岩手県陸前高田市を中心に活動をしている一般社団法人 S に聞き取り調査を行った。どこに誰がいるのかという情報が直感的にわかるので、「発見」を促し情報入手のきっかけを与える上で効果的であるという意見を得た。

## 6. おわりに

本研究では、市民活動における活動情報の流れを明らかにし、地図を利用した情報提示の方法とそれに基づいた情報システムの構築を行った。今後は運用により得られた活動情報の分析や利用者へのヒアリング調査などを行い、地図の利用が市民団体や活動の提示に相応しいものか検証を行う。また地域情報との連携も視野に入れ、市民活動と地域住民との関係性の把握なども行っていく。

## 参考文献

- 1) 田中百合子,北野哲人,丸尾哲也,井出慎司: 市民参加を意識した情報流通に関する社会実験での Web サイトの活用, 信学技法, FACE2001-12, pp.7-12 (2001-10)
- 2) 内閣府国民生活局: 平成 20 年度市民活動団体等基本調査報告書 (2009)
- 3) 浜田忠久,小野田美都江: インターネットと市民 NPO/NGO の時代に向けて,丸善株式会社 (2003)